

令和7年度マイスター・ハイスクール事業 成果発表会 講評シート

学校または管理機関名(福井県)

1. 取組についての評価

・坂井高校、武生商工を拠点校として県内すべての専門高校へ普及を図るため、すべての学校に産学連携コーディネーター的人材を配置し推進しようとしていること、自他県の専門高校への知見を共有する取組が徐々に進められていることなど、県、拠点校それぞれが全県及び近隣の専門高校を率先して牽引しようとする様子がわかり評価できる。

・坂井高校のコンソーシアムが機能し、産・官・学の垣根を取り払った協働の学びが実施されてきている。学外では企業、地域、自治体、大学と連携した「探究活動」が成果を上げてきている。

・坂井高校・武生高校ともに育成したい資質能力を定め教員間で共有し評価、分析も行われており、かつ探究型の学びの計画も考え方もしっかりしている。

・坂井高校においては「社会に通用する探究的課題研究」を一つの柱として掲げ、産学官と連携して課題探究力をメインに向上させようとしており、単にスキル取得や知識だけを学ぶものではなく資質能力の育成について考え、進められている。

・坂井高校・武生商工ともに複数専門学科がある強みを生かして専門分野を越えた学びの融合ができている。このような学びの意味は大きいものとする。

・本県事業に関しては、知的クラスター創成や地域イノベーション創出によって蓄積されてきた産学官連携の仕組み(地域連携コンソ、産学連携コーディネータ、等)や知見が、マイスター・ハイスクールの広域化に好影響を与えているように見受けられる。産業労働部と教育委員会とのコミュニケーションや連携もあるものと思われ、拠点校推進委員会の設置などの広域化に必要な仕組み作りも行われている印象。また、県内に独自性の高い中小企業の集積もあり、繊維や化学加工、メッキ等のものづくり系の技術蓄積もあり、高レベルな経営経験人材も人口密度的には多そう。こうした利点を上手く活用できるポテンシャルがある。

・定例ミーティングで県内専門高校をつなぐ取組、高校生探究フォーラムを設置して普通科高校を含めて推進している取組など、県全体で進めていることがよくわかった。

<坂井高校>

・コンソーシアム事務局を進路指導部に設置し、企業との情報交換が常に可能な形を作っている。

・企業にとっての価値を確認して取り組んでいる。

・文化祭に企業ブースを出展してもらったり、課題研究発表に企業が参加するなど、企業との連携活動が具体的かつ効果的に進められている。

・コンソーシアムに県の産業部が関わるなど、教育関係者の内側に限定することのない取組が好循環を生んでいる。

<武生商工高校>

・企業から解決すべきテーマを挙げてもらうのは産業界の課題に実際に向き合うことであり、大変適切である。

・商業工業と一緒に課題研究グループを作る形は、1+1が2より大きくなる期待が持てる。また、それぞれの教師が協力しながら新たな知見を得る機会にもなるため、大変良い。

2. 今後の課題と考えられること

・あとは地元の実地の熱量の問題。マイスター・ハイスクール的なプログラムや制度の実効を上げる為には、息の長い取組が必要。少数でも強いリーダーが出てくるかどうかカギ。

・現在、行われている企業等連携の方向性や考え方については賛同できるものであり、かつ緻密に考えられ推進されている。また、育成する資質能力を明確にして実践されていることも良いことである。しかしながら、地域のどういう産業のどういう人材を育てたいかという具体的なイメージが今回の発表からあまり見えてこないように感じている。(今回の発表ではそこが見えにくかったかもしれないが...)地域産業を担う上で必要となる専門知識やスキルについての育成は課題研究以外で考慮に入れていく必要性はないのか。(※学科によっても違いはあり、課題研究を最大限活用して専門力とともに課題解決力や協働する力などを身に付けさせようとする学科もあるだろう。)

・課題研究のテーマ設定が地元食品ロスへの対応に限定されているように見える。生徒一人一人が、課題・問題意識や自己のあり方・生き方に関連したテーマを自由に設定できる余地があるのか、気になった。

・若狭高校が実施している協育パートナーシップのような認定制度を、福井県として実施するなど、行政としての取組をより充実させても良いのでは。